

# 令和6年度 宮古島市『インクルーシブ教育の推進』

令和6年2月:宮古島市教育委員会

## 宮古島市の『特別支援教育』の充実

～個の教育的ニーズに応じた支援&保幼小中切れ目のない支援で子どもたちの『自立』を目指して～

### 【全教職員が「チーム宮古」として誰一人取り残さない教育を!!】

- みんなで支え合い・認め合い・高め合う授業づくり・学級づくり【ユイマール:協働する力】
- 「できる!」が当たり前ではなく「できない!」(つまづき)から考えてみる。(できないを受け入れる)【博愛の心:異質な他者を認める力】
- 教師の『意味づけ・価値づけ・勇気づけ』は子どもたちの『自己肯定感』を高める!【命どう宝:自他を大切にする力】

### 環境を整える(人的環境・物的環境) 【基礎的環境整備】



- (1) 学校職員全体でインクルーシブ教育の理念を共有する。
  - 理念を共通理解し、ベクトルを一つにして取り組む
  - 特別支援学級のみではなく、通常学級担任、教科担任等すべての教師で取り組む。
- (2) 教員同士が「同僚性」を発揮し、多様性を活かし合うチームであること
  - 困難さの見える子どもへの支援の状況を整理し、役割分担を行う。
    - ①具体的な仕組みをつくる。→どの子どもがどれくらいの支援が必要か。
    - ②受けている支援はどんな支援か。
    - ③現在の支援は有効か、有効でないか、また有効でないのはなぜかなどを検討し、それぞれの役割分担を再確認する。
- (3) 自治的集団づくりや温かい雰囲気(支持的風土・認め合い)の学級経営にこころがける
  - 「助けを求めること」や「違うこと」を受け入れる文化をつくる。
  - 自分たちのことをみんなで考えてを解決していく集団をつくる。
- (4) 多様性を前提とした学級づくり・授業づくりに努める
  - 学ぶスピードや学び方がひとりひとり違うことを前提に考え、子どもたちに多様な選択肢を与える。  
例)歌で覚えるブース、書いて覚えるブース、絵と結びつけて覚えるブースなど
- (5) 合理的配慮を提供すること
  - 例)読み書きが困難な子どもの場合タブレットを使って学ぶ等、子どもの学び方に応じた柔軟な変更・調整を行うこと。

宮古島市全体で切れ目のない支援を「系統的」に取り組む!

インクルーシブ教育の推進



参考:著インクルーシブ教育ってどんな教育?